

教育学部

教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)

【教育課程の編成方針】

学校教育課程では、公教育の担い手として多様な人々と協働しながら、学識に支えられた指導力により子どもたちの学習・発達を支援し、生涯にわたって学び続ける教師を育てるために、以下のような特徴を有する教育課程を編成し、実施する。

【教育課程における教育・学習方法に関する方針】

1. 幅広い専門領域を担う教員組織と新しいカリキュラム開発

多様な教科や領域の教員が協働し、地域・社会の諸課題を視野に入れた授業やカリキュラムを開発する。また、地域との連携やグローバル社会を視野に入れた学校教育の重要性を考えることのできる人材を育成する。

[DP 1, 2, 3, 4, 5]

2. 実践と省察を繰り返す協働的な学習

子どもたちの成長と発達を促す実践への参加と省察を繰り返す学習経験を積ませる。全学年の学生が協働して探究することにより、専門職としての教師に求められる学習を積み重ねる。

[DP 1, 2, 3, 4, 5]

3. 教科・領域の専門性を高めるための科目配置

教科・領域が成立する根拠や意義、歴史的背景への理解をベースに、教科・領域の目的・目標・内容・方法に関する専門性を培う。さらに各教科・領域のカリキュラム・単元・授業・教材・活動内容の提案、事例研究を行いながら、教科横断的、系統的な視野に基づいた学習を組織することができる実践的力量を形成する。

[DP 2, 3, 5]

4. 深い人間理解を促すための科目配置

人間の教育・心理に対する専門的理解を深めながら、就学前段階にある幼児や特別な教育的ニーズをもった児童・生徒の成長も視野に入れ、多様な視点から子どもの成長や発達を支援することができる力量を形成する。

[DP 2, 3, 4, 5]

5. 学び続けることのできる教師の育成

学識形成の足跡を示す学びの履歴・成果をまとめることにより、世代継承サイクルを組み込んだ学習コミュニティを形成する。専門職としての総合的な能力を評価するために、協働探究のプロセスやそこで育まれた能力を把握し、学習個人誌を作成・公開する。

[DP 6]

※ 特に関係が深いディプロマ・ポリシーの項目を[DP1,2]のように表記した。

【学習成果の評価の方針】

1. 授業科目の成績評価は「福井大学における多面的かつ厳格な成績評価のガイドライン」に沿って行います。科目ごとの詳細はシラバスに記載します。
2. 卒業研究及び教職実践に関する科目については、ディプロマ・ポリシー等の観点から、複数の教員により多面的かつ厳格な評価を行います。
3. ディプロマ・ポリシーに掲げた能力等の評価は、授業科目の成績評価を総合化して行います。